

— 祝詞奏上(例大祭) —

阿蘇神社 <http://asojinja.jp>

令和5年11月1日

第 87 号

発行所

阿蘇神社社務所
多良見町化屋862
☎ 0957-43-5235

社報 あそみや

喜々津くんち

阿蘇神社
宮司 大島 大明

阿蘇神社は、天文三年（一五三
四）の秋に熊本県一の宮阿蘇神社
より御分霊をいただき、喜々津村
の総鎮守として社を設け、奉斎し
たと伝えられます。

当初は圃の地に祀られましたが、
九〇年後の頃に現在地に神殿を建
て遷座されました。

神社で行われる祭典は、大祭・
中祭・小祭と分類されています。

大祭は神社の創建に縁の深い日に
行われる例祭、五穀豊穣を祈念す
る春の祈年祭、収穫に感謝する秋
の新嘗祭の三つが大祭式の祭典と
規定されています。

今年は御鎮座四八九年、来年は
御鎮座四九〇年の慶賀すべき年に
当たり、十年毎の式年大祭として
斎行されることになっています。

敬神生活 綱領

神道

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培い、大
平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類
の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。
ここにこの綱領をかかげて向ふところを明らかにし、実践
につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、

明き清きまことについて祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、
神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
一、大御心をいただきてむづび和らぎ、
国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

令和五年 例大祭終了!!

去る十月十五日、秋晴れのもと恒例の例大祭(喜々津くんち)が斎行されました。

祭典は修祓の後、御扉を開いて

神饌と神社本庁及び長崎県神社庁の幣帛料と玉串料及び参列者よりの初穂料が神前に供えられました。

次に宮司が御神徳を称え、氏子崇敬者の平穏無事と更なる御加護を祈念する祝詞を奏上しました。その後宮司に続き参列者の代表が玉串奉奠を行いました。

祭典終了後、神社庁規程表彰の伝達式が行われました。神社庁の表彰式は、年に一度開催される「神道中央研修会」時に行われます。今年は平戸市で開催され、正副総代会長と宮司が出席しました。

◎神宮大麻領布優良從事者表彰
◎長崎県神社庁表彰

責任役員 北島勝幸 殿

◎神宮大麻領布優良從事者表彰
船津自治会評議員

川崎 剛 殿

松尾清人 殿

今般の例大祭に際し左記の通りご献納を賜りました。ご芳名を記しお札を申し上げます。

〔順不同・敬称略〕

参考までに全文を記載します。ぜひご一読下さい。

阿蘇神社由緒

一、社格 旧村社

二、祭神 建磐龍命 (タケイワタツノオノミコト)

三、祭神の系統

四、建磐龍命は神八井耳命の御子にして神武天皇の御孫神なり然れば即ち天照大神の直系なりき

一、由緒

當神社は肥後國官幣大社阿蘇神社の御分靈にして天文三^甲年(一五三四年)中秋九月時の領主西郷石見守當村鎮守として勧請せられ木床名の神地を撰して神祠を建立し以て神威の尊嚴を示現し人民に命じて諸事の警護に當らしめ阿蘇神社と称号し建磐龍命を奉祀する所なり

爾來領主の尊崇淺からず人民の崇敬信仰亦日々篤く守衛を乞ふ者多く

領主の許可を得て參集し恰も神祠の園を為すに至る依つて地名を園と称するに至れり

文禄二年閑白豈臣秀吉朝鮮征伐の為肥前國名護屋城を本陣とするに際し地理検査として當津へ臨見の砌り當社の御神託を請て大いに喜び給ふ

依て此の津を喜々津と名附け給ふ(喜ばしき事を聞く津と云う意)後世訛りて喜々津と云う

寛永元^甲年當村正法寺二代の住職傳譽法師は肥後國阿蘇神社宮司の男

なりしを以て縁由特に深きが故其の信仰極めて厚く隨て氏子と同心協力

して清淨の地を撰し社殿を現在鎮座の地に奉遷す其れより此の地を称し

て阿蘇ノ島と曰く爾來氏子の尊崇益々深厚にして寺僧も代々其の意を繼

承し崇敬奉仕の誠を盡せり

然るに明治元年神佛混濁廢止の官令に依り寺僧の奉仕を禁止し明治七年五月村社に列せられ同年祠堂を命ぜられ是れ神職主任奉仕の始めとす

尚弘化元^甲年二月火災に罹り年代記等の書類等悉く焼失したるため詳

細なる点不明なり

明治四十一年勅令第四十二号に基き大正二年二月十八日神饌幣帛料供

進神社に指定せられたり

◇阿蘇神社の由諸

◇総代会便り◇

一、定例評議員会の報告

定例評議員会は、五月二十四日開催されました。コロナ禍で中止が続きましたが、三年振りに対面での会議が行われました。

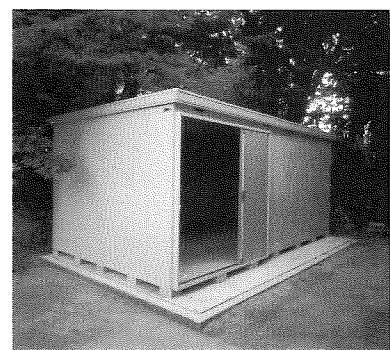
総代会会計の一般及び特別会計の決算書及び收支報告書、祭事報告書は原案のとおり承認されました。なお今期の監事は左記のとおり選任されました。

令和五年度の監事

木下 聰 殿 (福井田)
清水 光一 殿 (下市)

二、倉庫を新設

来年は御鎮座四九〇年の慶賀すべき年を迎えます。例大祭は十年毎の式年大祭として、神社本庁より献幣使が参向し、幣帛を奉り祝詞を奏することになっています。神社では記念行事として社務所裏に倉庫を新設しました。



—新設した倉庫—

三、注連縄つくり

毎年十二月第一日曜日に「注連縄つくり」を行っています。神社正面と鳥居に飾る注連縄を作ります。経験者が少なく毎年苦慮しています。ご参加いただける方がいらっしゃっしゃいましたら神社までお知らせ下さい。

◎今年の注連縄つくりは

十二月三日(日) 午前九時より
場所 阿蘇神社境内
午前中で終了の予定です。ご参加ご協力をお願いします。

- ◎祝祭日には国旗を掲げてお祝いいたしましょう。
- ◎お正月には新しい御神札を受けて祀りましょう。

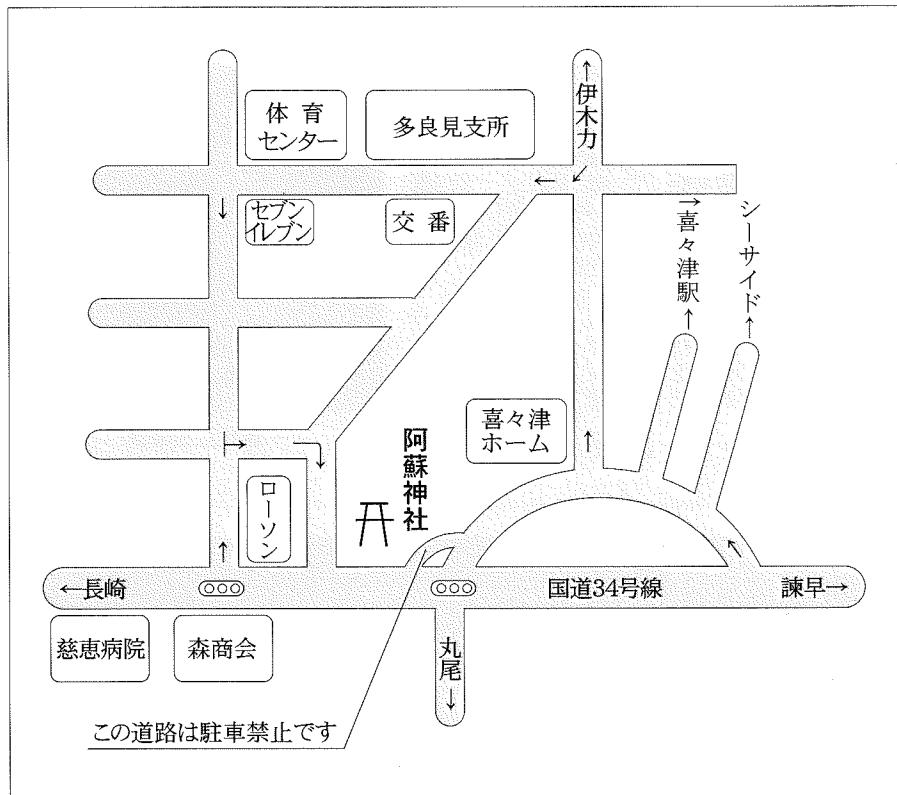


—例大祭の参列者—

七五三詣は阿蘇神社へ!!

男女三才を『髪置』、男児の五才を『袴着』、女児七才を『帯解』または『紐解』と称し、いずれも子供の健やかな成長を願う行事です。ご家族お揃いでご参拝下さい。

令和五年の七五三祝 数え年
男女 三歳 令和 三 年生
男 五歳 令和 元 年生
女 七歳 平成 二十九年生



◆あとがき◆

令和五年五月八日よりコロナは5類感染症に移行されました。顧みれば、国内のコロナ禍は令和二年二月、横浜港に接岸したクルーズ船（ダイヤモンド・プリンセス号）の集団感染から始まつた以来三年、全国の行事はほぼ中止、神社の祭礼も自粛が続いたが、徐々にコロナ禍以前に戻りつつあり嬉しい限り▼マスクの着用は個人の判断が基本となつたものの、マスクなしの生活に戻るのは何時になるのでしょうか▼日毎に寒くなつて参りました三密を避けながら御自愛専一にお過ごし下さい。

☆駐車場には限りがございます。
乗り合わせてお越し下さい。

☆受付時間 午前十時～午後三時
これ以外の日時にご参拝予定の方は、お手数ながら事前に予約をお願いします。

◎お知らせ◎

十一月十一日(土曜)、十二日(日曜)、十九日(日曜)の三日間は、
七五三の予約は不要です。